

日本作物学会第 253 回講演会プログラム

会 期：2022 年 3 月 27 日（日）～ 3 月 28 日（月）

会 場：オンライン（ZOOM）

事務局：〒 243-0034 神奈川県厚木市船子 1737 東京農業大学農学部 作物学研究室
日本作物学会第 253 回講演会運営委員会

プログラム一覧

月日	時刻	第 1 会場	第 2 会場	第 3 会場	第 4 会場
3 月 27 日 (日)	9:00	挨拶および事務連絡			
	9:15	栽培（イネ） 1～9	栽培（マメ類） 28～36	リモートセンシング・ モデリング 55～63	形態/ 遺伝子・ゲノム解析 81～89
	12:00	昼休み			
	13:00	受賞式			
	14:00				
	14:15	栽培（イネ、その他） 10～18	栽培（ムギ類、その他） ／発芽・発育 37～45	リモートセンシング・ モデリング/ 代謝・分配・蓄積 64～72	環境ストレス 90～98
17:00					
3 月 28 日 (月)	9:15	栽培（マメ類、その他） 19～27	発芽・発育／品質 46～54	光合成・呼吸・ 物質生産／形態 73～80	環境ストレス／その他 99～106
	12:00	昼休み			
	13:00	ポスター（奇数）		*	*
	13:45		ポスター（偶数）		
	14:30				
	15:00	ミニシンポジウム（1）	ミニシンポジウム（2）	ミニシンポジウム（3）	小集会
17:00					

(注) 一般講演 15 分，切替 3 分，ポスター発表のコアタイムは最初の 30 分，*は控室として開放

1. オンラインで講演会に参加する際の注意

安定した通信環境とパソコン，ZOOM クライアントをご用意ください。ハウリング等を防止するため，イヤフォンやヘッドセット（ヘッドフォン+マイク）の使用を推奨します。講演会場の URL 情報が会期直前に参加者に配信されますので確認してください。URL 情報を他に転送したり，SNS 等にアップロードしたりすることは固く禁止します。ZOOM の取扱いに慣れた方も，講演会ホームページに掲載されたマニュアルで参加手順をご確認ください。

- 1) 一般講演（口頭発表）に参加する時は，原則として「マイク」と「ビデオカメラ」を OFF にし，座長や会場系の指示に従ってください。
- 2) 名前が [氏名（所属）] になっていることを確認し，別の名前になっている場合は，すみやかに変更して

ください。

- 3) 質問がある場合は、「参加者」サブ画面の右下にある「手を挙げる」をクリックして意思表示してください。質問が終われば、「手を降ろす」を忘れずにクリックしてください。
- 4) 「チャット」を疑応答に使用しても構いませんが、演者や座長の応答が必ずしもすぐにあるとは限りません。また、チャットの送信先として、特定の個人宛ておよび視聴者全体宛ての2種類あることに注意してください。
- 5) 発表内容を録画やスクリーンショット等により無断で記録することを禁止します。データ盗用等の研究不正防止のため、ZOOM参加者情報を一時的に記録させていただきます。情報は不正防止の目的以外には使用しません。あらかじめご了承ください。

2. 一般講演

日 時：3月27日（日）9：15～12：00，14：15～17：00

3月28日（月）9：15～12：00

会 場：オンラインで4つの会場を準備します。

◎講演時間：講演12分，質疑3分（計時ベルは鳴りません）。講演の間に3分の接続時間があります。

3. ポスターセッション

日 時：3月28日（月）13：00～14：30

会 場：オンラインで2つの会場を準備します。

ポスターセッションは運営委員会が準備するZOOMミーティングIDで行います。メイン会場の中に、ブレイクアウトルームを1演題につき1つずつ設けます。ポスター発表者は、それぞれの講演番号のブレイクアウトルームに事前に入室し、ポスターを提示して発表や質疑応答を進めてください。ポスターセッションは全体で90分間とします。全ポスター演題を奇数演題と偶数演題の2グループに分け、それぞれ45分かかるグループで発表していただきます。なお、各セッションの最初の30分間をコアタイムとします。ポスター発表者は、少なくともコアタイムでは必ず発表・質疑応答をしてください。どちらのセッション会場も90分間入退室自由としますので、コアタイム以外の時間も質疑などにご利用いただけます。

4. 授賞式

日 時：3月27日（日）13：00～14：00

(1) 日本作物学会賞（第66回）

- ・ 地域営農システムの生産性・持続性の解明と解析手法の展開
—日本での田畑輪換と中国での集約的多毛作を対象に—
稲村達也（京都大学大学院農学研究科）

(2) 日本作物学会技術賞（第12回）

- ・ 水稲および大豆における潮風害の被害把握法とリスクマップの作成および水稲における被害軽減技術の開発と普及
森静香（山形大学農学部）・柴田康志（山形県農業総合研究センター）
- ・ 寒冷地における耐倒伏性品種を用いた水稲無コーティング種子の代かき同時浅層土中播種技術の開発
白土宏之（農研機構東北農業研究センター）・伊藤景子（農研機構東北農業研究センター）・今須宏美（農研機構東北農業研究センター）・川名義明（農研機構東北農業研究センター）・笹原和哉（農研機構東北農業研究センター）・古畑昌巳（農研機構東北農業研究センター）・松田 晃（山形県最上総合支庁）・片平光彦（山形大学農学部）・菅原金一（石井製作所）

(3) 日本作物学会研究奨励賞（第26回）

- ・ エネルギー作物エリアンサスの栽培・利用システムの構築のための群落・根系形成の発育形態学的解析
金井一成（鷗友学園女子中学高等学校）
- ・ 農家を主体とする現地実証試験に適したデータ解析手法の開発
田中貴（岐阜大学応用生物科学部）

5. ミニシンポジウム

- (1) イネの野外ビッグデータを用いた「人工知能」による育種プラットフォームの開発

代 表：下野裕之（岩手大学）

日 時：3月28日（月）15：00～17：00

講演題目と話題提供者：

- 1) イネの野外ビッグデータを用いた「人工知能」による育種プラットフォームの開発
下野裕之^{1*}・金天海^{1,2}・阿部陽³・佐藤睦志⁴・岩田洋佳⁵
(¹岩手大学・²Sky Ocean Technology Co., Ltd.・³岩手生物工学研究センター・⁴夷風凜凜・⁵東京大学)
- 2) 表現型プラットフォームの開発：成長モデルを用いた作物収量を定量化する新たな評価法
下野裕之^{1*}・佐藤睦志²
(¹岩手大学・²夷風凜凜)
- 3) 遺伝子型プラットフォームの開発：GWASによる新たな収量性遺伝子の探索
阿部陽¹・佐藤睦志²・岩田洋佳³・金天海^{4,5}・下野裕之⁴
(¹岩手生物工学研究センター・²夷風凜凜・³東京大学・⁴岩手大学・⁵Sky Ocean Technology Co., Ltd.)
- 4) シングル・エポック・ラーニング
—ディープラーニングを用いた作物の遺伝形質予測の自動化と高速化—
金天海^{1,5}・岩田洋佳²・阿部陽³・佐藤睦志⁴・下野裕之⁵
(¹Sky Ocean Technology Co., Ltd.・²東京大学・³岩手生物工学研究センター・⁴夷風凜凜・⁵岩手大学)
- 5) これまでに蓄積されてきたイネ育種データをゲノム—表現型関係モデリングに活用する
岩田洋佳¹・佐藤睦志²・阿部陽³・金天海^{4,5}・師田郷太⁶・下野裕之⁴
(¹東京大学・²夷風凜凜・³岩手生物工学研究センター・⁴岩手大学・⁵Sky Ocean Technology Co., Ltd.・⁶バージニア工科大学)

(2) Post ACSAC10: Frontiers of Rice Research in Indonesia—Adaptation to Global Warming—

代 表：坂上潤一（鹿児島大学）

日 時：3月28日（月）15：00～17：00

講演題目と話題提供者：

- 1) Validation of the intensify and actual rice technology package for increasing rice productivity in swampy tidal land In Indonesia
Nurwulan Agustiani¹, Rina Hapsari Wening, Swisci Margaret¹, Trias Sitaresmi¹, Indrastuti A. Rumanti¹, Aris Hairmansis¹, Priatna Sasmita², Yudhistira Nugraha²
(¹Indonesian Center for Rice Research, ²Indonesian Center for Food Crop Research and Development)
- 2) Some progress to obtain rice varieties tolerant and adaptive to climate change conditions in Indonesia's nontidal swamps
Rujito A. Suwignyo*, E. S. Halimi, Susilawati, Erizal Sodikin, and Munandar
(Department of Agronomy, Faculty of Agriculture, Sriwijaya University)
- 3) Ameliorant as the agent to overcome Aluminium toxicity of Upland rice in Indonesia
Gagad R. Pratiwi*¹, Indra Gunawan¹, Nurwulan Agustiani*¹, Swisci Margaret¹, Ladiyani R. Widowati²
(¹Indonesian Center for Rice Research (ICRR), ²Indonesian Soil Research Institute (ISRI))
- 4) Rice Intensification through Multi-canopy Cropping System
A Junaedi*¹, E F Pramudyawardani², M B R Khamid³, H Purnamawati¹, L M Zarwazi², Susilawati⁴, L B Prasetyo⁵, A K Wijayanto⁵, A A Sujaswara⁶, Y Sastro², H Aswidinnoor¹ and I Lubis¹
(¹Dept. of Agronomy and Horticulture, Faculty of Agriculture, IPB University, ²Indonesian Center for Rice Research, IAARD, Ministry of Agriculture, Indonesia, ³Department of Agrotechnology, Faculty of Agriculture, Singaperbangsa University, ⁴Central Kalimantan Assessment Institute of Agricultural Technology, IAARD, Indonesia, ⁵Dept. of Conservation and Eco-tourism, Faculty of Forestry and Environment, IPB University, ⁶Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan)
- 5) Sustainable Intensification of Rice Production at Tropical Riparian Wetland
Kartika^{1*} and Benyamin Lakitan^{2,3*}
(¹Research Center for Biology, Research Organization for Life Sciences, National Research and Innovation Agency (BRIN), Cibinong 16911, West Java, Indonesia, ²College of Agriculture, Universitas Sriwijaya, Inderalaya 30662, Indonesia, ³Research Center for Sub-optimal Lands (PUR-PLSO), Universitas Sriwijaya, Palembang 30139, Indonesia)

(3) 作物の新しい耐塩性機構

代表：東江栄（九州大学）

日時：3月28日（月）15：00～17：00

講演題目と話題提供者：

1) 作物の好塩性機構

東江栄

（九州大学）

2) イネ葉鞘における塩排除能の分子機構の解析とその分子育種への応用の可能性

三屋史朗^{1*}・後藤樹^{1,M2}・Neang Sarin^{1,2}・仲田麻奈³・土井一行¹・山内章¹

（¹名古屋大学大学院生命農学研究科・²カンボジア農林水産省・³名古屋大学農学国際教育研究センター）

3) イネの Cl⁻ 蓄積と耐塩性との関係

平井儀彦

（岡山大学大学院環境生命科学研究科）

4) 塩ストレス下におけるイネ葉肉細胞内のオルガネラ間の協調関係と耐塩性との関係

山根浩二^{1*}・大井崇生²・谷口光隆²

（¹近畿大学大学院農学研究科・²名古屋大学生命農学研究科）

6. 小集会

日時：3月28日（月）15：00～17：00

若手の会企画による小集会（30）「悩みをみんなで吹きとばせ！若手のモヤモヤ相談会」

発起人：谷吉和貴（京都大学大学院農学研究科）、山口友亮（東京農工大学大学院連合農学研究科）、中畠洸太（京都大学大学院農学研究科）、磐佐まりな（東京農工大学大学院農学府）、佐藤稜真（九州大学大学院生物資源環境科学府）

内容：作物学会の若手研究者同士の交流を深めたいとの思いからお悩み相談会を企画しました！若手ならだれもが経験する、普段はなかなか話さないふとした疑問や、研究、就職、恋愛などの「若手の悩み」をこの機会に赤裸々に話し合ってみませんか？ざっくばらんな交流ができる場にしようと考えていますので、皆さまの積極的な参加をお待ちしています！！

・作物に関わる幅広い立場の若手研究者も交えての座談会

・常に4～5人ほどのグループディスカッション

・事前アンケートなどを利用した意見交換および話題提供

7. 講演会参加費など

		前納*	当日払
参加費 (講演要旨集代を含む)	一般	6,000円	—
	学生	2,000円	—

*前納：2月14日（月）までの郵便振替のみ。

日本作物学会第 253 回講演会運営委員会

運営委員長：森田茂紀（東京農業大学農学部）
事務局 長：上地由朗（東京農業大学農学部）
運営委員：入江憲治（東京農業大学地域環境科学部）
平野 繁（東京農業大学農学部）
垣内 仁（東京農業大学農学部）

事務局：〒 243-0034 神奈川県厚木市船子 1737
東京農業大学農学部農学科作物学研究室
日本作物学会第 253 回講演会運営委員会事務局
TEL: 046-270-6514
E-mail: cssj202203@gmail.com
第 253 回講演会ホームページ：<http://www.cropscience.jp/meeting/253/index.html>

本誌に掲載された論文などの著作権は、日本作物学会が所有しています。
学会ホームページ：<http://www.cropscience.jp/index.html>